〈谷崎源氏〉考（三）

――『潤一郎新訳源氏物語』愛蔵本における改訂に関する調査報告（補）――

中村ともえ

補論　巻三～五の改訂について

「新訳」愛蔵本の序文には、「特に巻一と巻二とは字句に修正を加へた箇所も少くない」と記されていた。本研究は、谷崎のこの言葉を手がかりに、調査範囲を巻一・二（「桐壺」～「胡蝶」）に限定した（〈谷崎源氏〉考（一）一章参照）。

実際、この言葉を裏付けるように、改訂は巻一・二までほぼ終息する。ただし、巻一・二と比べるとわずかではあるが、巻三以降にも若干の改訂が見られる。本稿では、まず巻三～五の改訂の実態を調査し、その上で全篇にわたって確認される表記・ルビの改訂について整理する。

巻三～五の改訂は、以下の通りである（初刊→愛蔵本、頁・行は初刊による）。

巻三（「蛍」～「若菜下」）　20例

・優る→勝る（「常夏」29頁8行）
・盤渉調［ばんしきてう］→盤渉調［ばんしきでう］（「篝火」47頁14行）
・煩［わづら］って→患［わづら］って（「行幸」75頁3行）
・優り劣り→勝り劣り（「行幸」87頁10行）
・煩［わづら］ひ→患［わづら］ひ（「真木柱」119頁14行）
・優り劣り→勝り劣り（「梅枝」155頁3行）
・優って→勝って（「藤裏葉」175頁12行）
・優った→勝った（「藤裏葉」177頁14行）
・過［あやま］ち→過ち（「若菜上」15頁1行）
・含羞［はにか］み→羞渋［はにか］み（「若菜上」43頁10行）
・過［あやま］ち→過ち（「若菜上」49頁15行）
・優［まさ］り→勝［まさ］り（「若菜上」55頁6行）
・過［あやま］ち→過ち（「若菜上」85頁12行）
・懐かしく→懐しく（「若菜上」88頁4行）
・懐かしい→懐しい（「若菜上」93頁9行）
・過［あやま］ち→過ち（「若菜下」108頁8行）
・含羞［はにか］んで→羞渋［はにか］んで（「若菜下」124頁2行）
・優って→勝って（「若菜下」133頁11行）
・過［あやま］ち→過ち（「若菜下」153頁13行）

・懐かしい→懐しい（「若菜下」178頁12行）

巻四（「柏木」～「総角」）　11例

・過［あやま］ち→過ち（「柏木」　4頁9行）

・過［あやま］ち→過ち（「柏木」　7頁11行）

・過［あやま］ち→過ち（「柏木」　13頁11行）

・懐かしく→懐しく（「柏木」25頁1行）

・盤渉調［ばんしきてう］→盤渉調［ばんしきでう］（「横笛」52頁2行）

・伺候→祗候（「夕霧」90頁12行）

・伺候→祗候（「夕霧」134頁5行）

・含羞［はにか］んで→羞渋［はにか］んで（「橋姫」65頁3行）

・御忌→御忌［おんいみ］（「椎本」116頁11行）

・仲人［なかうと］→仲人［なかうど］（「椎本」129頁3行）

・含羞［はにか］む→羞渋［はにか］む（「総角」178頁3行）

巻五（「早蕨」～「夢浮橋」）　4例

・懐［なつ］かしさ→懐［なつか］しさ（「寄生」114頁3行）

・哀れ→あはれ（「寄生」114頁4行）

・人形［ひとがた］→人形［ひとかた］（「東屋」143頁12行）

・人形［ひとがた］→人形［ひとかた］（「蜻蛉」104頁15行）

このように、巻三～五の改訂は、ごくわずかであり、種類も表記・ルビに関するもの（分類記号E1・E2）に限られている。

＊

既に三章で確認したように、表記・ルビの改訂は、他の種類の改訂が愛蔵本巻一の範囲に集中するなか、巻一・二を通じて一定数見られる（〈谷崎源氏〉考（二）別表参照）。巻三～五になると、他の種類の改訂はなく、表記・ルビの改訂のみが確認される。

これら表記・ルビの改訂は、巻一から巻五までの全篇を通じて、特定の単語を中心に行われている。

ルビは、

・過［あやま］ち→過ち　9例

等の削除ないし追加、あるいは

・人形［ひとがた］→人形［ひとかた］　3例

等の清音濁音の違いだけで、別の語句に改める（単語のよみ方を変更する）ことは原則的にない。

表記は、

・優る→勝る　18例

・含羞［はにか］む→羞渋［はにか］む　15例

・伺候→祗候　3例

のように、漢字を別の漢字に改める場合（ただし、本文中のこれらの単語がすべて改訂の対象になるわけではない）と、

・対屋→対の屋　7例

・懐かしい→懐しい　6例

のように、単語の表記の一部を改める場合がある。

後者は、同じ単語の送り仮名を揃えるために行われたものと考えられる。他に、行く末→行末、恐しい→恐ろしい、間違ひ

↓間違（各1例）も、送り仮名の統一の例としてまとめられよう。

中央公論社の編集者として愛蔵本を担当した伊吹和子は、谷崎から「送りがなを統一するなど、「桐壺」から改めて読み直してみてほしい」との指示を受け、「本文の誤植の再点検」等を行ったと証言している（一章参照）。送り仮名の統一は、伊吹が実際の作業を担ったものと推測される。なお、誤植の訂正（G）も少数ながら確認され（別表参照）、これも伊吹の証言と合致する。

［付記］
・本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（研究活動スタート支援22820031）の助成を受けたものである。

（なかむら　ともえ・静岡大学専任講師）